



平成28年10月27日

各 位

上場会社名 **アンリツ株式会社**
代表者 代表取締役社長 橋本 裕一
(コード番号 6754 東証第一部)
問合せ先責任者 取締役 執行役員 CFO 窪田 顕文
(TEL 046 - 296 - 6507)

平成29年3月期 業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成28年10月27日開催の取締役会において、平成28年4月27日に開示した平成29年3月期の業績予想を次のとおり修正することとしましたのでお知らせいたします。

1. 平成29年3月期通期連結業績予想数値の修正 (IFRS・平成28年4月1日～平成29年3月31日)

	売上収益 (百万円)	営業利益 (百万円)	税引前利益 (百万円)	当期利益 (百万円)	親会社の所有者に 帰属する当期利益 (百万円)	基本的1株当たり 当期利益 (円)
前回発表予想 (A) (平成28年4月27日 発表)	97,000	7,200	7,100	5,300	5,300	38.61
今回修正予想 (B)	87,500	2,200	1,400	1,000	1,000	7.28
増減額 (B-A)	△ 9,500	△ 5,000	△ 5,700	△ 4,300	△ 4,300	—
増減率 (%)	△ 9.8	△ 69.4	△ 80.3	△ 81.1	△ 81.1	—
(参考) 前期実績 (平成28年3月期)	95,532	5,897	5,434	3,767	3,760	27.38

2. 修正の理由

当社グループの主力である計測事業は、スマートフォン関連市場において全般的に顧客の投資抑制が継続しています。スマートフォンの出荷台数伸び率鈍化の影響で、中国の端末製造市場のみならず、チップセットベンダー等のR&D市場においても設備投資に慎重な姿勢がみられます。IoTやAutomotive関連などで新たな開発投資はありますが、中国における3CA (3波キャリアアグリゲーション) 導入時期が2018年以降に延期されたこともLTE-Advanced開発需要の押し下げ要因となっています。次世代の通信技術である5G関連計測需要の当社収益への貢献は2017年度以降とみており、2016年度下半期も全体としてはスマートフォン関連計測市場の停滞が継続する見込みです。ついては、計測事業の売上収益を95億円、営業利益を50億円下方修正します。なお、PQA(プロダクツ・クオリティ・アシュアランス) 事業及びその他事業においては期初計画からの変更はありません。

税引前利益、当期利益及び親会社の所有者に帰属する当期利益については、営業利益の修正、金融費用の計上の影響を織り込んでそれぞれ修正しております。

なお、配当につきましては、期初計画どおり1株当たり年間15.00円を予定しております。

(参考)

セグメント別売上収益の予想 (平成29年3月期通期連結)

(単位:百万円)

	前回発表予想 (A) <small>(平成28年4月27日発表)</small>	今回修正予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)	前期実績
売上収益	97,000	87,500	△9,500	△ 9.8	95,532
計 測	68,000	58,500	△9,500	△ 14.0	67,729
P Q A	20,000	20,000	-	-	18,891
その他	9,000	9,000	-	-	8,910

(参考)第3四半期以降想定為替レート:1米ドル=100円

セグメント別営業利益の予想 (平成29年3月期通期連結)

(単位:百万円)

	前回発表予想 (A) <small>(平成28年4月27日発表)</small>	今回修正予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)	前期実績
営業利益	7,200	2,200	△5,000	△ 69.4	5,897
計 測	5,500	500	△5,000	△ 90.9	4,706
P Q A	1,400	1,400	-	-	1,194
その他	300	300	-	-	△ 3

(注)「その他」には、セグメント情報における「その他」と「調整額」を合わせて表示しております。

(注意事項)

本発表資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの記述は、現在入手可能な情報による当社経営陣の仮定や判断に基づくものであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

実際の業績に影響を与える重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場のなかでアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。ただし、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。